

# RX-2610-NPS

## 取扱説明書



本機をご使用になる前に、必ず取扱説明書を良くお読みください。  
取扱説明書は大切に保管してください。

### はじめに

このたびは、本機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
この取扱説明書は本製品の性能をいつでも最大限に発揮し、安全に、正しく能率的な作業を進めていただくため、必要な取扱操作の手順や点検、手入れの方法などをまとめてあります。

(株)新宮商行の方針は、常により優れた本機を市場に提供するために、絶えず設計、製造、技術の改良を続けることです。従って仕様、装備、色、デザインと価格を予告無しに変更する事があります。又、(株)新宮商行は、すでに出荷済みの本機に対して、あらかじめ通知や改良品の供給をすること無しに、そのような変更を行う権利を留保します。

- ★ 機械寿命を高めるため純正品、指定品をお使いください。
- ★ 部品交換をするときには純正品を使い、正しく修理してください。
- ★ 故障したとき（又は定期整備時）はお買い求め戴いた販売店へご用命ください。
- ★ 不明な点は、御気軽にいつでも販売店へおたずねください。

### すべての安全規則を守ること！

◇ この取扱説明書に記載されている危険、警告、及び注意事項をよく読み、確実に理解してください。

文中の危険、▲ 警告、△ 注意は安全上及び取扱上特に重要な部分ですので、必ず守ってください。

**▲ 危険：取扱上、極めて危険な事項についての説明です。**

ここに説明された事項については、間違った取り扱いをしますと  
重傷や死亡事故の原因にもなりますので必ず守ってください。

**▲ 警告：特に重要な取扱上の警告事項です。**




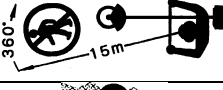




ここに説明された事項については、間違った取り扱いをしますと  
重大な事故や負傷の原因にもなりますので必ず守ってください。

**△ 注意：正しい操作のための注意事項です。**

ここに説明された事項については、間違った取り扱いをしますと  
事故や機械の故障の原因にもなりますので必ず守ってください。

## 警告表示のマークについて

説明を分かりやすくするため、本機、取扱説明書には下記のようなマークを使用しています。

	本機をご使用になる前に、必ず取扱説明書を良くお読みください。
	作業時には保護メガネ、防音保護具(耳栓など)、保安帽を必ず着用してください。
	ソーチェンを取り扱う際には、必ず保護手袋を着用してください。
	本機の作業者は作業員から15m以内に人やペットを入れてはいけません。人やペットが入ってきた場合には、すぐにエンジンを停止しソーチェンを止めてください。
	エンジンの排気ガスには人体に有害な一酸化炭素が含まれています。直接吸い込んだり、換気の悪いところでの使用はやめてください。
	本機は引火しやすいガソリンを含む混合燃料を使用していますので、引火の恐れのある場所では給油、燃料の保管、刈払作業などを行わないでください。
	エンジンの点火部には高圧電流が流れますので、直接触れると感電事故の原因となります。
	エンジンやマフラー、及びその周辺は高温になりますので直接触れるとやけどを負うことがあります。

## 使用上の注意

### ▲ 警告

- ◇ 正しい操作のために注意、警告事項を守ってください。注意、警告事項を守らないと重大な事故に結びつくことがあります。

## 基本的注意事項

### ▲ 警告：取扱説明書を熟読してください

- ◇ 本機をご使用いただく前に、必ずこの取扱説明書を読み、操作、保守、点検を充分理解した上で使用すること。



### ▲ 警告：用途以外の使用禁止

- ◇ 本機は枝打ち用に設計、製造されています。それ以外の用途には使用しないでください。
- ◇ 本機はソーチェンを高速で回転させて対象物を切る機械です。取扱方法を誤ると深刻なけがや事故の原因となります。

### ▲ 警告：使用者の制限、又は禁止

- ◇ 本機の使用者及び管理者は、本機の取扱内容を理解していない人や、**子供**には、本機を使用させないこと。
- ◇ 疲れているとき、体調が悪いとき、病気のとき、医薬品を服用したとき、飲酒したときには本機を使用しないこと。

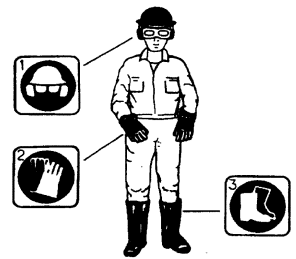
### ▲ 注意：貸与、譲渡時の注意事項

- ◇ 本機を他人に貸与または譲渡する場合は取扱方法を充分説明し、この取扱説明書を必ず添付すること。

## 作業前の注意

### ▲ 警告：正しい服装と保護具の着用

- ◇ 作業時には、①保護メガネ、防音保護具(耳栓など)、保安帽、②防振手袋、③安全長靴を必ず着用してください。
- ◇ ダブダブの服、装飾品などの本機や枝などにひっかかる可能性のあるもの、また半ズボンなど肌を露出する服は、着用しないでください。
- ◇ ソーチェンなどを扱うときには、保護手袋を必ず着用してください。



### ▲ 警告：使用前の点検について

- ◇ 本機を使用する前には、必ず取扱説明書の記述に従って、点検、整備を行うこと。
- ◇ 使用に適さない部品や、異常が発見された場合には、速やかに販売店などに点検、修理を依頼すること。なお、部品は純正部品を使用すること。

### ▲ 危険：燃料の混合、補給時の火気厳禁

- ◇ **火気厳禁**：燃料混合時や給油時には、必ずエンジンを止めてください。また、たばこの火やたき火のような火気のあるところでは燃料混合や給油を行わないこと。
- ◇ **火気厳禁**：始動の際には必ず、給油箇所から3m以上離れること。
- ◇ 給油時に燃料がこぼれた場合は燃料を本機から完全にふき取ること。
- ◇ 燃料の補給後はタンクキャップを確実に締めること。



### ▲ 警告：ソーチェンの取り扱いについて

- ◇ ソーチェンを取り扱う際には、必ず保護手袋を着用すること。
- ◇ ソーチェンはいつも正しく目立てしたものを使用し、異常があるものは、絶対に使用しないこと。

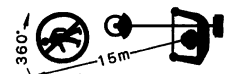


### ▲ 警告：危険緩和装置の取り外し禁止

- ◇ 肩掛けバンドなどを取り外して使用してはいけません。

### ▲ 警告：作業範囲への他社の立入禁止

- ◇ 作業員から半径15m以内を作業範囲とし、この範囲に人や家畜が入ってきた場合は、すぐにエンジンを切り、ソーチェンの回転を止めてください。
- ◇ 感電の危険がありますので、電柱や電線から10m以上離れて作業を行うこと。



### ▲ 警告：作業環境について

- ◇ 作業の範囲にある石、ガラス、釘、針金などのソーチェンがはね飛ばしそうなものや、ツタ、紐などのソーチェンに絡み付きそうなものは、前もって取り除いておくこと。
- ◇ 夜間、及び照明のない所など視界の悪い場所では本機を使用しないでください。
- ◇ 雨天時、又は雷天時には本機を使用しないでください。

### ▲ 警告：排気ガスについて

- ◇ 屋内や換気の悪い場所でエンジンを始動、運転してはいけません。エンジンの排気ガスには人体に有害な一酸化炭素などの物質が含まれています



### ▲ 警告：エンジンの始動時の制限、又は禁止

- ◇ 始動時のソーチェンの回転には充分注意すること。始動の際に思いがけずソーチェンが回転し、作業や周りの人に危害を与えることがあります。はじめにエンジンの停止方法（12 頁参照）をよく理解してください。
- ◇ エンジンの始動方法を理解しないうちに、エンジンを始動してはいけません。
- ◇ エンジン始動時は、必ず本機を地面の上に置き、ソーチェンが地面や障害物などに触れていないことを確認してから始動すること。
- ◇ エンジンが始動したら停止スイッチを押して、確実にエンジンが停止することを確認すること。
- ◇ メインパイプ(操作桿)を取り付けていない状態で、絶対にエンジンを始動しないこと。

### 作業中の注意

### ▲ 注意：作業姿勢の注意

- ◇ しっかりとした平らな場所に立つようにし、常にバランスを保つように作業すること。

### ▲ 警告：作業中のソーチェンについての禁止事項

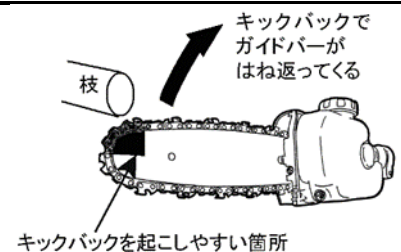
- ◇ 作業中は、ソーチェンを岩や金属などの切ることができない物や地面に故意に接触させないこと。
- ◇ ソーチェンを岩や金属などの切ることができないものや地面に不意に接触させてしまったときは、エンジンを止め、ソーチェンの回転が止まってからソーチェンを点検すること。
- ◇ ソーチェンに異常がある場合はソーチェンを交換し、ソーチェンが緩んでいたり、スムーズに回らないときはソーチェンを正しく付け直してください。
- ◇ 動いているソーチェンに触れたり、物を当てたりしないこと。
- ◇ 本機を下に置くときはエンジンを停止し完全にソーチェンの回転が止まっていることを確認すること。

### ▲ 警告：エンジンのアイドリング回転数の調整

- ◇ アイドリング回転時にソーチェンが回転すると危険です。アイドリング回転時にソーチェンが回転するようであれば、お買い求めの販売店にアイドリング回転数を調節するように依頼してください。

### ▲ 注意：キックバックについて

- ◇ キックバックとは、回転するソーチェンが硬いものに接触したときに、反動で機械と作業者の全体が激しく強く押される現象です。
- ◇ キックバックが起きると、作業者が本機を制御できなくなります。特にソーチェンの先端が硬いものに接触すると、激しく押されたり、跳ね上がったりする事があります。**絶対にソーチェンの先端だけでは作業をしないでください。**



### ▲ 注意：飛散物について

- ◇ 回転するソーチェンが小さな物に接触したときに、周囲に跳ね飛ばされることがあります。
- ◇ 作業者に飛散物が飛ぶことがありますので、保護メガネなど用いて怪我などに注意してください。

### ▲ 警告：エンジン、及びソーチェンの回転中の点検・修理の禁止

- ◇ 本機の点検・修理・作業中断時は必ずエンジンを停止し、ソーチェンの回転が完全に止まってから行うこと。
- ◇ 作業中にソーチェンが障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止し、ソーチェンの回転が止まっていることを確認してから、点検を行うこと。
- ◇ 本機に異常を感じたらただちにエンジンを停止し、ソーチェンが止まっていることを確認してから点検を行うこと。



- ◇ ソーチェンの周辺部に雑草、つるなどが絡まったときは、ただちにスロットルレバーを低速に戻し、エンジンを停止し、ソーチェンが止まっていることを確認してから、点検・除去すること。
- ◇ エンジンをかけたままソーチェンの周辺部の雑草、つるなどを除去すると不意にソーチェンが動きはじめ、非常に危険です。

#### ▲ 警告：運転中の高電圧部、高温部の接触禁止

- ◇ 本機の運転中は、点火プラグキャップ部や、高圧線に触れてはいけません。感電事故の原因となります。
- ◇ 運転中はエンジンやマフラー、及びその周辺に触れてはいけません。また停止後もしばらくは高温ですので触れてはいけません。



#### △ 注意：共同作業での注意

- ◇ 二人以上で作業する場合は、作業の終了や危険発生などを知らせる合図をあらかじめ作業者間で決めて作業すること。また、合図には遠くからでも合図ができるように、呼子（ホイッスル）などを使用すること。
- ◇ 作業者同士の間隔は、15m以上とること。

#### 作業後の注意

#### ▲ 警告：損傷したソーチェンの使用禁止

- ◇ ソーチェンは使用する前に目立ての善し悪し、ソーチェンの割れ、過熱による変色、欠けなど損傷の有無などが無い、カシメ部分がスムーズに動くか確認すること。不適切なソーチェンは廃棄すること。

#### ▲ 警告：高温時の点検、清掃の禁止

- ◇ エンジンやマフラー、及びその周辺は、エンジン停止後はしばらく高温です。点検・清掃は十分に冷えてから行うこと。

#### ▲ 警告：ソーチェンの回転軸周りの清掃

- ◇ ソーチェンを取り扱う際には、必ず保護手袋を着用すること。
- ◇ 作業後はソーチェンやギアやその周りに絡み付いている草やツタなどを取り除くこと。



#### ▲ 警告：保管時の注意

- ◇ 長期間使用しないときは、燃料タンクやキャブレターの中の燃料を空にして、屋内の湿気やほこりの少ないところに保管すること。
- ◇ ソーチェンをつけたまま保管するときには必ずカバーを取り付けるか、ソーチェンを外しておくこと。
- ◇ 子供の手の届かないところに保管すること。

#### ▲ 警告：運搬時の注意

- ◇ 使用中に次の作業地へ移動するときは、たとえ短い距離でも必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから、ソーチェンにバーカバーを取り付けること。
- ◇ 車などで輸送するときは、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから、燃料タンクを空にし、ソーチェンにバーカバーを取り付けて、動かないようにしっかりと固定すること。ただし、メインパイプ（操作桿）が曲がらないように、充分注意してください。

## 各部名称

No.	名称	No.	名称
1	ギアケース	13	燃料キャップ
2	ガイドバー	14	エアクリーナ
3	ソーチェン	15	スパークプラグ
4	チェンカバー	16	スターター
5	オイルタンク	17	マフラー
6	ドライブシャフト		
7	メインパイプ		
8	前方グリップ		
9	ハンガー		
10	スロットルレバー		
11	後方グリップ		
12	燃料タンク		

## 組立について

(お客様で組み立てる仕様やお客様が外した場合、下記のように組立点検を行なってください。)

### エンジンとメインパイプの取り付け

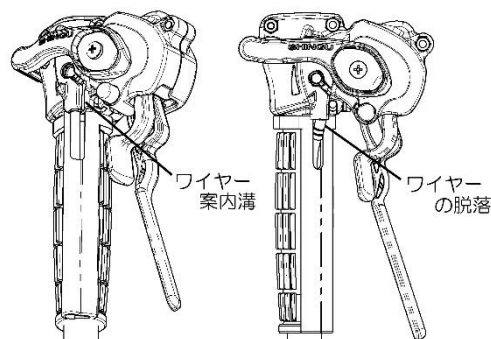
1. メインパイプの片端に付いている差込マークの矢印までエンジンのクラッチハウジングを差し込みます。  
このときメインパイプ先端のソーチェンの取付部が下を向くように合わせてください。
2. 抜け止めスクリューと締付けスクリューをしっかりと締付けてください。



### スロットルワイヤーの取り付け

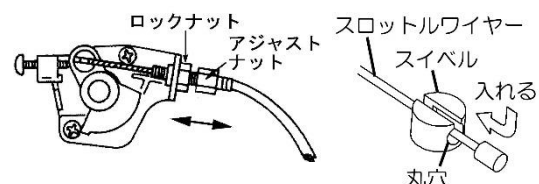
ツェグリップ/ループハンドル/両手ハンドルモデル

1. ワイヤーがスロットルレバーのワイヤー案内溝にきちんと入っているか確認してください。外れている場合があります。



### ⚠ 注意

- ◇ スロットルワイヤーを取り付け終わったら、必ずスロットルワイヤーがキャブレターのアジャストナットに確実に入っているかどうか、確認してください。
- ◇ スロットルワイヤーがキャブレターのスィベルから抜け出していないか確認してください。

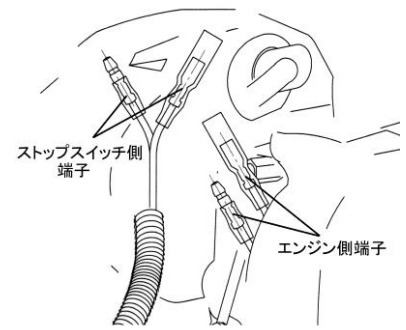
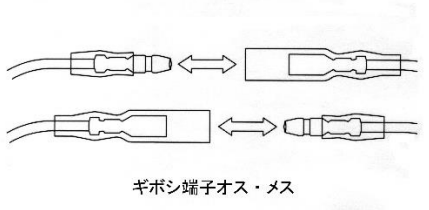


### スロットルワイヤーの遊びの調節

スロットルワイヤーの遊びは0.5～1.0mmになるように調節します。アジャストナットを回して、スロットルワイヤーの遊びを調節します。

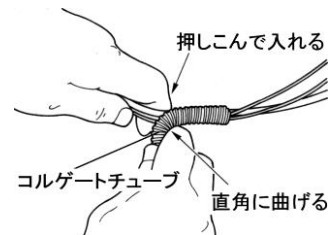
## 配線の取り付け

1. ストップスイッチ側（メインパイプ側）の2本の端子（ギボシ端子オスメス）とエンジン側の2本の端子（ギボシ端子オスメス）を結合してください。



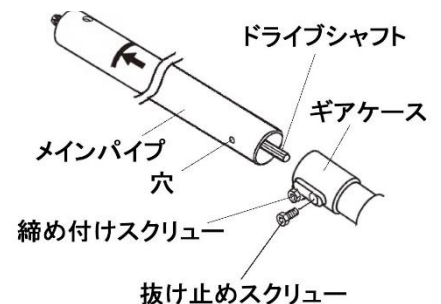
## コルゲートチューブの取り付け

1. スロットルワイヤーとリードワイヤーをまとめます。
2. コルゲートチューブの割れている部分を外側にして直角に曲げ、押し込むように入れていきます。



## ギアケースの取り付け

1. ギアケースにある抜け止めスクリューと締め付けスクリューをゆるめます。
2. パイプ側の穴と抜け止めスクリューの位置をあわせて抜け止めスクリューと締め付けスクリューをしっかりと締め込みます。
3. 抜け止めスクリューとパイプ側の穴位置が合わない場合は、ドライブシャフトとの噛み込みを確認してください。それでも穴位置が合わない場合は、パイプの穴を加工するか、抜け止めスクリューを外してしっかりと締め付けスクリューを締め付けて使用してください。



## 燃料の混合と給油

### ⚠ 危険

- ◇ **火気厳禁**：必ず、火の気の無い場所で行うこと。又、燃料混合の時にはタバコを吸ってははいけません。燃料に引火して、火災ややけどの危険があります。
- ◇ 給油の際、燃料がこぼれた場合には、こぼれた燃料を本機から完全にふき取ること。こぼれた燃料が引火して火災ややけどの危険があります。
- ◇ 給油の際、ハンドルにオイルや燃料が付いていたら、ふき取ること。ハンドルにオイルやガソリンが付いていると手が滑り、重大な事故を引き起こす危険があります。



### ⚠ 警告

- ◇ タンクキャップは確実に締付けること。
- ◇ 作業の途中で給油するときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行なうこと。

### ⚠ 注意

- 混合燃料は正しく混合された新しいものを使用すること。
- ◇ 生ガソリン(混合されていないガソリンのみのもの)
  - ◇ 混合比率の間違ったもの
  - ◇ 混合されてから30日以上経過したものや、変質したもの
  - ◇ 砂やゴミ、水などの入ったもの
- は絶対に使用しないでください。エンジンの寿命を縮めるばかりか、故障の原因となります。
- ◇ エンジンの燃料タンク内でじかに混合しないこと。

## 燃料および混合比率

- 本機の燃料には無鉛ガソリンに2サイクルエンジン用オイルを混合した物を使用します。混合は燃料タンクで行わず別の容器を用意して行います。
- 弊社発売の専用エンジンオイル「SS-50 (JASO 規格 FC 級)」を御使用ください。

ガソリンの量	1 l	5 l	10 l
エンジンオイルの量	20 cc	100 cc	200 cc
混合比率 < 50 : 1 >			

燃料の混合、及び携帯には弊社発売の計量器付混合缶をご使用ください。正しい混合比率の混合燃料が必要な量だけ簡単に作れます。

## 給油

1. 各部を点検し、ゆるんでいるナットやボルトがあれば増し締めます。
2. 燃料タンクが台になるように本機を平らな地面の上に置きます。
3. 正しく混合した燃料を燃料タンクに給油します。

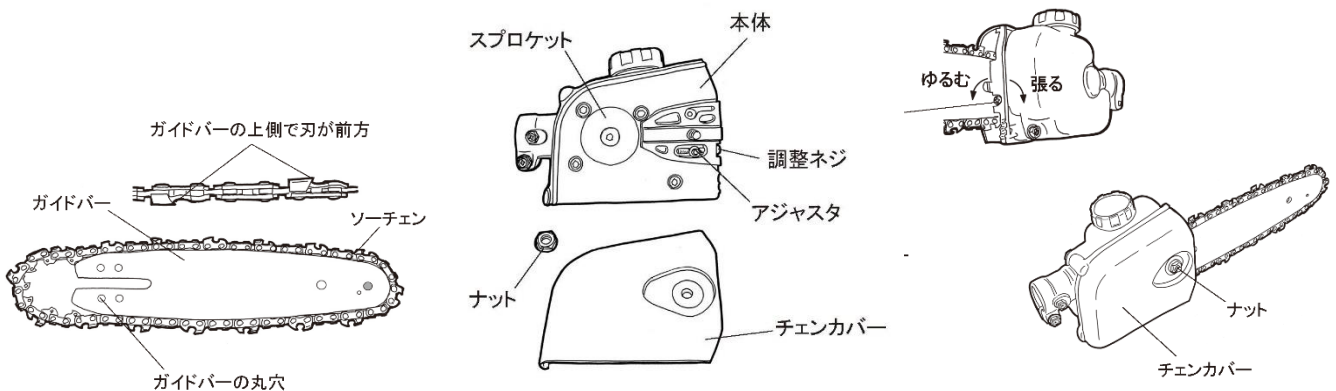
## ガイドバーとソーチェーンの取り付け

### ▲ 警告

- ◇ ソーチェーンを扱う時には必ず保護手袋を着用すること。
- ◇ 保護手袋を着用せずにソーチェーンを扱っていると、手や指にケガを負う原因となります。
- ◇ ソーチェーンの張りを調節する際には、必ずエンジンが停止していることを確認してください。
- ◇ ソーチェーンの張りが適切でないと、ソーチェーンやガイドバーを痛め故障の原因となります。ゆるすぎますとソーチェーンが外れることがあり、危険です。適切に張られていることを確認してください。
- ◇ ソーチェーンが新しい間は特に伸びやすいので、30分ほどで一度、張り具合を点検し、調整してください。なお、ナットの締め付けも点検してください。

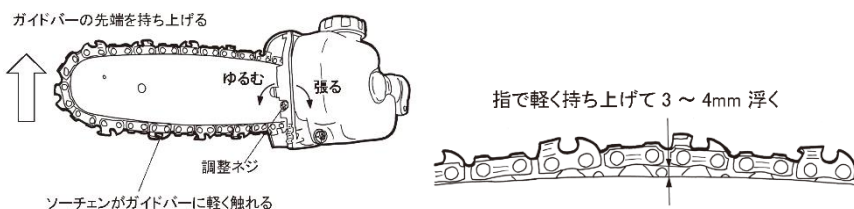


1. ソーチェーンをガイドバー外周の溝に装着してください。このとき、ガイドバーの上側で刃が前方になるように装着してください。
2. スプロケットにソーチェーンをかけてください。
3. 本体のアジャスターがガイドバーの後方の丸穴に入るようにガイドバーに取り付けてください。（ガイドバーの前方の丸穴に入れるとチェーンが張れなくなるので注意してください）
4. アジャスタの位置がガイドバーの後方の丸穴に合わない場合は調節ネジを回して入るように調節してください。
5. チェンカバーを本体に取り付け、ガイドバーが動かせる程度にナットで仮止めしてください。





- ガイドバーの先端を上へ上げ、ドライバーで調節ネジを右に回し、ソーチェンがガイドバーの下側に軽く触れるまでソーチェンを張ってください。
- チェンカバーのナットをしっかりと締め付けてください。
- ガイドバーの中央付近でソーチェンを指で軽く持ち上げたとき、ガイドバーから3~4mmほど浮くことを確認してください。

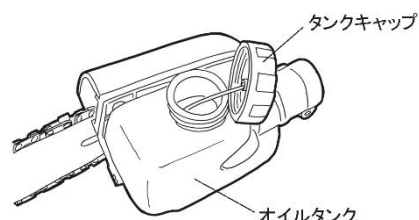


## ソーチェンの張り方

- チェンカバーのナットを1回転緩めてください。
- ガイドバーの先端を持ち上げ、調節ネジを回し、調節してください。
- チェンカバーのナットをしっかりと締め付けてください。
- ガイドバーの中央付近でソーチェンを指で軽く持ち上げたとき、ガイドバーから3~4mmほど浮くことを確認してください。

## チェンオイルの給油

- タンクキャップを外し、オイルタンクにチェンオイルを給油してください。
- 給油後、タンクキャップを回して確実に締めてください。



ご使用の前にチェンオイルの吐出量を調整してください。

## 始動から停止まで

### 始動

#### ⚠ 危険

はじめにエンジンの停止方法（12頁参照）をよく理解してください。

- エンジン始動時は、必ず本機を地面の上に置き、ソーチェンが地面や障害物などに触れていないことを確認してから始動すること。
- 始動の際には、必ず給油した場所から、3m以上離れた場所で行うこと。
- ガソリンやオイルのそばで始動を行うと火災や、やけどの危険があります。
- 始動の際に思いがけずソーチェンが回転し、作業員や周囲の人に危害を与えることがあります。始動時には十分に注意してください。



#### ⚠ 注意：スターターについて

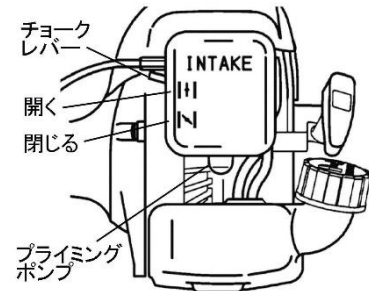
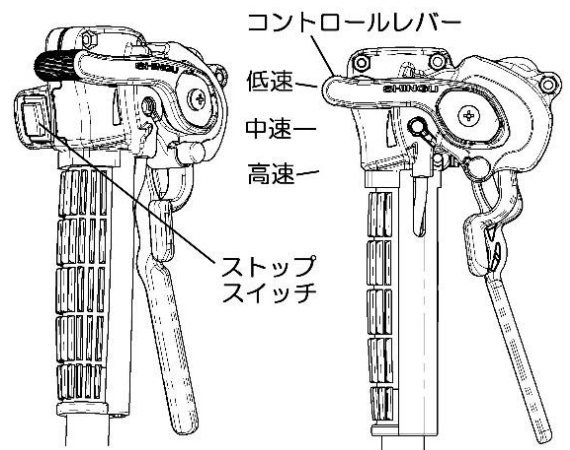
◇ ロープが引き出せないところまで（力を入れて）引ききると故障の原因になることがあります。

### ◎エンジンが冷えている場合

1. 安全のため、ストップスイッチの位置を確認します。
2. コントロールレバーを低速（始動位置）にします。
3. キャブレターのプライミングポンプを数回押します(10回以上)

燃料が透明のオーバーフローパイプを通り始めますので、オーバーフローパイプ内を流れる燃料に気泡がなくなるまで、プライミングポンプを繰り返し押します。(プライミングポンプを必要回数以上に押した場合でも、余分な燃料は燃料タンクの中に戻りますので、燃料を吸込み過ぎる状態になることはありません。)

4. チョークレバーを「閉じる」の位置まで下げて、チョークを閉じます。
5. 左手でクラッチケースをしっかりと押え、右手でスターターハンドルを持ち、スターターハンドルを勢いよく引きます。
6. エンジンがかかったら、チョークレバーを「開く」の位置までゆっくりと上げてチョークを開きます。
7. 爆発音がして、エンジンが止まった場合、またはエンジンがかかったが、チョークレバーを操作する前にエンジンが止まってしまった場合は、チョークを開いてからスターターハンドルを勢いよく引き、エンジンをかけます。
8. 1～2分間低速で暖機運転をしてください。



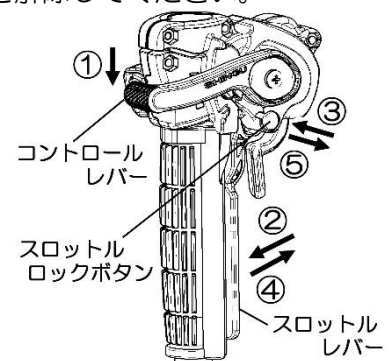
### ◎エンジンが暖まっている場合（エンジン停止直後など）

1. チョークレバーを「開く」の位置まで上げてチョークを開きます。
2. 左手でクラッチケースをしっかりと押え、右手でスターターハンドルを持ち、スターターハンドルを勢いよく引きます。数回引いてもエンジンがかからない場合には、「エンジンが冷えている場合」と同じ要領で始動を行います。

### ◎エンジンが始動しにくい場合（スロットル半開のしかた）

エンジンが始動しにくい場合は、スロットルロックボタンを使用してスロットルを半開にし、「エンジンが冷えている場合 4 項～7 項」（10 頁）に従ってエンジンを始動します。この場合、始動と同時にソーチェンが回り出しますので、始動後は速やかにスロットルレバーを握ってロックを解除してください。

1. コントロールレバーを中速の位置にします。
2. スロットルレバーを握ります。
3. スロットルロックボタンを押します。
4. スロットルロックボタンを押した状態で、スロットルレバーを放します。
5. スロットルロックボタンを放します。  
スロットルレバーが半開の位置でロックされますので、この状態で「エンジンが冷えている場合 4 項～7 項」（9 頁）に従ってエンジンを始動します。
6. もう一度スロットルレバーを握るとロックが解除されます。



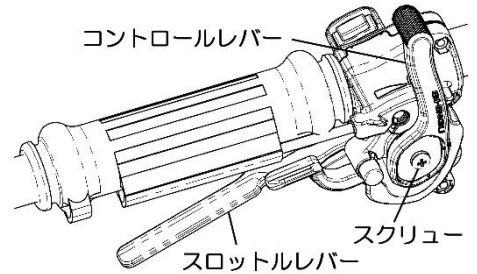
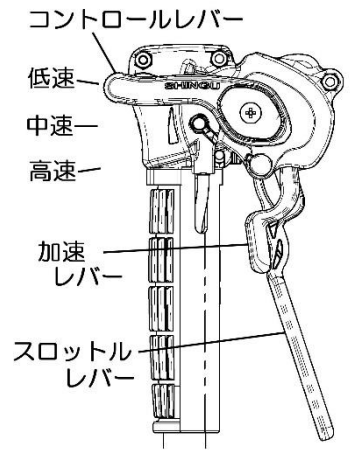
### 肩掛けバンドの装着

1. 付属の肩掛けバンドを左肩に掛け、フックが右腰に来るようにします。
2. 肩掛けバンドのフックをメインパイプのハンガーに引っ掛けます。
3. 作業姿勢をとったときバランスが取りやすいように肩掛けバンドの長さを調節してください。

**⚠ 警告**

◇ 燃料は出来る限り最後まで使い切らないうちに補給しましょう。使いきってから始動は困難です。

1. エンジンが始動したら、急に高速にしないで1～2分間ほどそのままの状態ですべて運転します。その後、スロットルレバーを握りながらコントロールレバーを中速側へ徐々に移動させ回転を上げます。  
スロットルレバーを放すと、アイドリングに戻ります。
2. スロットルレバーを開閉して、数回加減速を行います。これはキャブレター内の空気を抜くため、空気があると加速不良やエンストなどが発生することがあります。
3. コントロールレバーで作業に適した位置に回転数を設定します。
4. 回転が落ち込んだ時など、一時的に回転数を上げたい場合は、加速レバーを操作して行います。
5. コントロールレバーが連れ回りする場合  
スロットルレバーを握った時に、コントロールレバーが連れ回りする場合は、スクリューを少しだけ締め込んでください。  
締め込みすぎるとコントロールレバーが動きにくくなります。



**刈払作業**

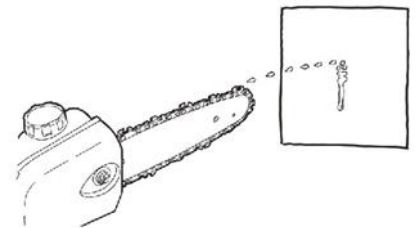
- スロットルレバーを握った状態でコントロールレバーを中速側へ操作すると、エンジン回転が上がり、自動的にクラッチがつながり、ソーチェンが回り始めます。
- コントロールレバーを高速（スロットル全開）にするとエンジンの回転数は約10,000rpmで回ります。基本はスロットル全開ですが、作業条件に合わせて、コントロールレバーでエンジンの回転数を調節してください。
- スロットルレバーを放すと、エンジンの回転が下がり、自動的にクラッチがきれます。
- スロットルレバーを放してもソーチェンが止まらずにずっと回り続ける場合には、「キャブレター（15頁）」に従ってアイドリングの回転数を調節してください。

**オイルの吐出量の確認**

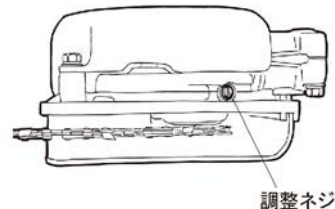
**⚠ 注意**

- ◇ 新品時やオイルを使い切った後に給油した場合は、オイルが出てくるまでしばらく時間がかかることがありますので、高速回転は避けてください。
- ◇ 新品のソーチェン使用時にはチェンオイルにしばらく浸けるか、組み込んだガイドバーとソーチェン自身に直接オイルを給油してから使用してください。オイルが回っていないと焼き付く恐れがあります。

- オイル吐出量の確認をしてください。スロットルでエンジンの回転を上げ、ガイドバーを地面や木に向けてください。オイルが出ていれば地面や木にオイルが付着します。



- オイル吐出量は出荷時に調整済みですが、もし調整が必要な場合があります。もし調整が必要なら本機下部の調整ネジで調整してください。



オイル吐出量が多い場合  
(吐出量を少なくする)  
調整ネジを右(時計方向)に回す



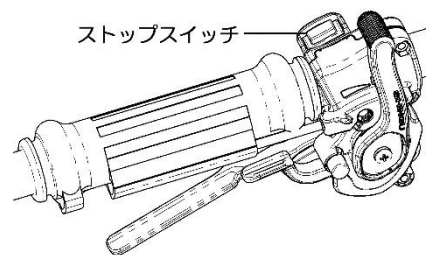
オイル吐出量が少ない場合  
(吐出量を多くする)  
調整ネジを(反時計回り)に回す

## 停止

### ⚠ 注意

◇ 緊急の場合は直ちにストップスイッチをエンジンが停止するまで押し続けてください。

1. スロットルレバーを放して、アイドリング(低速回転)でしばらく回します。
2. ストップスイッチを停止するまで押し続けてください。
3. スイッチの接触不良等により、ストップスイッチを押しつづけてもエンジンが停止しない場合はチョークレバーを「閉じる」の位置まで下げてチョークを閉じてください。しばらくするとエンジンが停止します。



## 枝切り作業

### ⚠ 危険

◇ 誤ってソーチェンが電線に接触するとソーチェンから電気が伝わり、感電して死傷などの重大事故を起こす危険が出てきます。電柱や電線から 10m 以上離れて作業を行ってください。

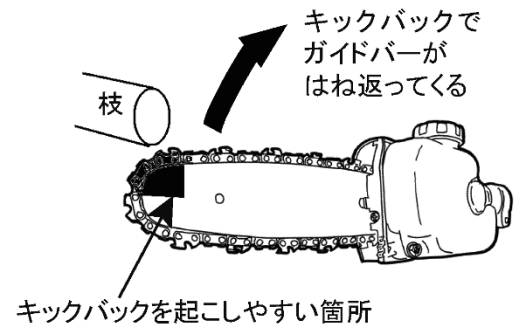


### ⚠ 警告

- ◇ 切り落とす枝の下には立たないでください。切り落とした枝が落ちてきて怪我をする恐れがあります。
- ◇ 作業中は 15m 以内に人、動物が近づかないようにしてください。
- ◇ 枝払作業を中断し体から機械を離すときは必ずエンジンを停止してください。エンジンが動いていると振動で静置した場所から動いたりして危険です。  
また、ふいにエンジン回転が上がった場合、ソーチェンが動き出し障害事故を起こす可能性があります。
- ◇ 安全のために必ず保護手袋をつけて行ってください。
- ◇ ソーチェンに異物が絡んだ場合はエンジンを停止してから除去してください。また、木にソーチェン、ガイドバーが挟まった場合もエンジンを止めてからクサビなどを用いて切り口を広げ外してください。エンジン回転中に無理に引き離すと、外れた瞬間ソーチェンが急に回り始め事故を起こす可能性があります。
- ◇ 食い込みから外れたらソーチェン、ガイドバーを点検して、ひび割れなどの異常がないか確認してください。異常がある場合は交換してください。
- ◇ 非常の場合は、吊りバンドの緊急離脱装置を使用して本機を体から離してください。本機が落下しますので充分注意してください。
- ◇ 万一、自分のすぐ近くに人がいることに気がついたときは決して動かないでください。本機を持ったまま振り向いたりすると、回転するソーチェンで人を死傷させる場合があります。まずエンジンを停止してソーチェンの回転が止まるのを確認してから対応してください。

### ▲ 警告

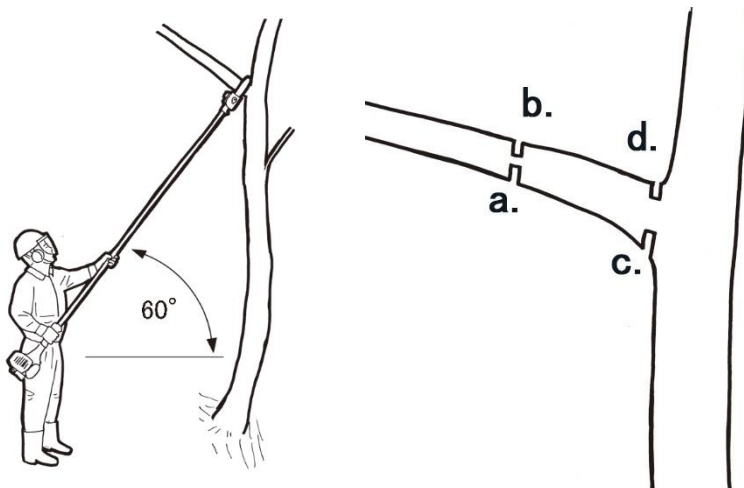
- ◇ キックバックが起きると、作業者が本機を制御できなくなります。特にソーチェンの先端が硬いものに接触すると、激しく押されたり、跳ね上がったります事があります。絶対にソーチェンの先端だけでは作業をしないでください。



### ▲ 注意

- ◇ 作業中、スロットルワイヤーを木の枝などに引っ掛けないように注意してください。スロットルワイヤーが引っ張られると、予期しないエンジン回転の上昇が起き危険です。
- ◇ できるだけ本機の自重を利用して鋸断してください。強く押し付けないと切れない場合は、ソーチェンのカッターの切れ味が低下していますので、目立てをするかあたらしいソーチェンと交換してください。
- ◇ ソーチェンを枝に強く押し付けることは作業者の疲労を早めるだけでなく、ソーチェンやガイドバーの早期摩耗の原因となります。
- ◇ 鋸断中、ソーチェンが木で締め付けられたとき、スロットルレバーを引いて無理にエンジンを回転させないでください。エンジンを停止し、クサビなどを用いて切り口を広げ外してください。

1. メインシャフトと地面の角度が  $60^\circ$  を超えない範囲の作業場所を選んでください。また、枝が作業者の方に落ちてくる可能性がありますので容易に退避できる足元の安定した場所を選んでください。
2. コントロールレバーをいっぱい引いてエンジン回転速度を全開にし、ソーチェンを枝に軽く押し当ててください。低い位置の枝から鋸断したほうが、枝が下に落ちやすく作業効率が上がります。また、エンジン回転を下げソーチェンを枝に強く押し当てたときは鋸断能力が低下します。
3. 太い枝を切る場合、一度に切ろうとするとガイドバーやソーチェンが枝に噛み込んだりうまく切れない場合があります。図の a~d の順番で鋸断作業を行うと、比較的容易に鋸断できます。
  - a. はじめに本来切るべきところよりやや離れたところの下側に切れ目を入れてください。
  - b. その上側から切り落としてください。
  - c. その後本来切るべき部分の下側から切れ込みを入れてください。
  - d. 最後にその上側から切って落としてください。



## 手入れ方法

### △ 注意

◇ 作業前の点検は必ず実施してください。本機に異常が発見された場合には、速やかに販売店に点検、修理を依頼してください。

- エンジンの寿命は手入れの良否で決まります。ボルト、ナットの緩みは毎日点検し、以下の手入れを守り、1年に1回は販売店で点検をしてください。

### 毎日の点検

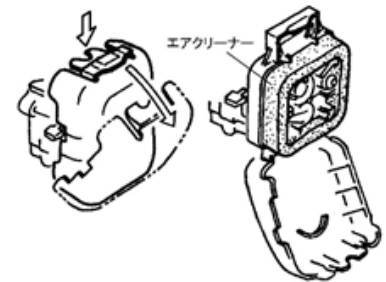
1. 使用前にボルトやナットがゆるんでいないか点検します。
2. ソーチェンは使用する前に、異常が無い点検すること。
3. 燃料タンク、タンクキャップ、燃料ホース、その他から燃料がもれていないか点検します。
4. エアクリーナ、スパークプラグを点検します。

### エアクリーナの清掃

エンジンにはエンジン内部にほこりなどが入らないようにエアクリーナが付いています。エアクリーナが詰まると出力の低下や始動不良となりますので、時々、洗浄が必要です。また、汚れがひどい場合は交換します。

また、毎日使用する場合には一日に一回、清掃してください。

1. クリーナキャップ下部の爪を押して取り外します。
2. エアクリーナを取り出して中性洗剤入りのぬるま湯で良く洗い、良く乾かしてください。
3. 汚れがひどい場合にはエアクリーナを交換してください。
4. 洗浄が終わったら、エアクリーナを元のように取り付けます。

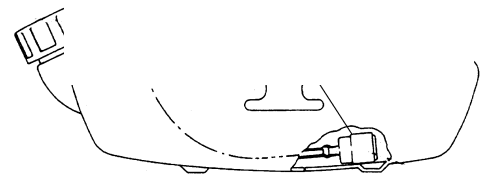


### 燃料フィルターの清掃

燃料ホースの先端（タンク内）には、フェルトのフィルターが付いており、レター内へ行かないようにしています。

フィルターに異物や水が付くと燃料を吸い上げることが出来なくなり、エンジン洗浄が必要です。

1. タンクキャップを外し、燃料を抜き、燃料タンクを空にします。この時、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合は、きれいに抜き取ってください。
2. 燃料フィルターを針金などを使って給油口から引き出します。
3. 燃料ホース先端から燃料フィルターを取り外し、燃料フィルターをきれいなガソリンで洗浄し、元通り取り付けます。
4. 燃料フィルターが詰まった場合、いたんでいる場合は交換してください。
5. 燃料フィルターを燃料タンク内に戻し、タンクキャップを確実に締付けてください。



## スパークプラグの清掃と調整

### ▲ 警告

- ◇ 運転中は点火プラグキャップ部や高圧線に触れてはいけません。感電事故の原因となります。
- ◇ スパークプラグの電極間隔の調節は基本的に行ってはいけません。
- ◇ 電極間隔の調節に慣れていない人が調節を行なうと、かえってエンジンが不調となることがあります。
- ◇ 電極間隔の調節を行う場合はスパークプラグの扱いになれた人に依頼してください。

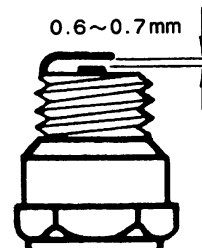


最良の運転状態ではスパークプラグの電極は茶褐色に乾燥しています。汚れていたら時々掃除します

又、スパークプラグの電極間隔は0.6mm～0.7mmが標準です。

電極間隔が広すぎたり狭すぎたりするとエンジンが正常に動かなくなりますので、不調の場合には点検、調整を行います。

1. スパークプラグからプラグキャップを外して、プラグレンチでスパークプラグを取り外します。
2. 先を細くした金物やワイヤーブラシなどで電極に付着したカーボンを掃除します。
3. 電極間の隙間を0.6mm～0.7mmに調節します（不調の場合のみ）。
4. スパークプラグを再び取り付け、プラグキャップをはめます。
5. 電極の掃除、間隔の調整を行っても、正常に働かない場合には、スパークプラグを交換します。交換する際には下記のプラグ、又は相当品を使用してください。



## スパークプラグ Champion CJ6Y

## キャブレター

### ▲ 警告

- ◇ キャブレターはあらかじめ工場では調節して出荷していますので、通常は調節の必要はありません。
- ◇ キャブレターの扱いに慣れていない人は、キャブレターの調節を行なってはいけません。間違った調節をしますとキャブレターだけでなくエンジンも壊れてしまうことがあります。調節は販売店に依頼してください。
- ◇ たとえ、キャブレターの調節が適切でないように見えても、キャブレターが原因でない場合がありますので、調節は販売店に依頼してください。

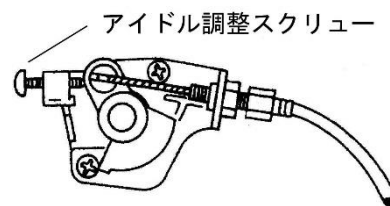
アイドリング回転時にソーチェンが動くと危険です。

アイドリング回転時にソーチェンが動くようであれば、アイドル調整スクリューでアイドリング回転数を調節してください。

1. エンジンを始動させます。
2. コントロールレバーを中速にし、スロットルレバーを開閉して数回加減速を行います。
3. スロットルレバーを放します。
4. アイドリング調整スクリューを左右に回して、回転数 2700～3200 r.p.m. の間でソーチェンが動き出さないところに合わせてください

### 参考

キャブレターが原因と思われる症状が合った場合でもキャブレターそのものが原因となっているとは限りません。周辺の燃料フィルターやエアクリーナの詰まりなどが原因となっている場合があります。まず、清掃を行なってください。

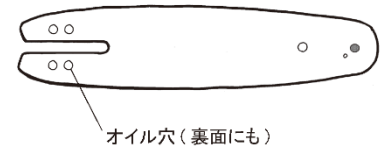


## シリンダーフィン

ほこりの多い所での使用、雨上がりの翌日、つゆ時の使用では草、ほこりなどがシリンダーフィンに詰まり、冷却効果が無くなりエンジンが過熱することがありますので、使用20時間ごとに清掃を行ってください。

## ガイドバーの手入れ

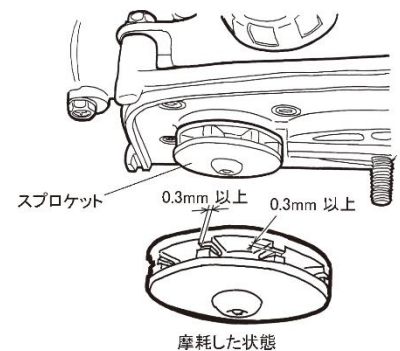
1. 1日の作業が終了したらガイドバーとソーチェンを取り外してください。
2. ガイドバーの溝やオイル穴に付着している切粉やゴミを取り除いてください。特にオイル穴に切粉が詰まっていないか確認してください。
3. 本体のオイル吐出口回りやスプロケット回りの切粉やゴミを取り除いてください。



ガイドバー取付時には偏摩耗防止と寿命を延ばすため、時々ガイドバーを上下逆に取り付けてください。  
オイル穴に切粉やゴミが詰まっていると焼き付きの原因となります。

## スプロケットの点検

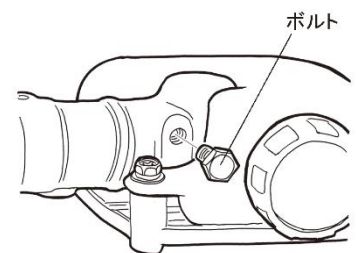
1. スプロケットを点検し、ネジが緩んでいないか、摩耗していないか確認してください。
2. スプロケットが図のように0.3mm以上摩耗したら交換してください。そのまま使用するとソーチェンの寿命が短くなります。



ガイドバー取付時には偏摩耗防止と寿命を延ばすため、時々ガイドバーを上下逆に取り付けてください。  
オイル穴に切粉やゴミが詰まっていると焼き付きの原因となります。

## ギアケースの注油

1. 本体をメインパイプから外してください。
2. ボルトを外し、リチウム系耐熱グリース（#2）を注入してください。グリースの量はドライブシャフトを差し込むスプライン穴から出る程度（10g）としてください。
3. ボルトを元通りに締め付けてください。



## ソーチェンの点検、目立て

### ▲ 警告

- ◇ ソーチェンを扱う時には必ず保護手袋を着用すること。
- ◇ 保護手袋を着用せずにソーチェンを扱っていると、手や指にケガを負う原因となります。
- ◇ ソーチェンは使用する前に、異常が無いか点検すること。
- ◇ 異常があるソーチェンは廃棄すること。異常があるソーチェンを作業に使用すると、正規の性能が発揮できないだけでなく、深刻なけがや事故の原因となります。



チェンの正しい目立ては枝切り作業を能率よく、安全に使用する上で非常に大切です。  
チェンの目立ての経験の無い方は販売店などでよく説明してもらい、指導を受けてください。



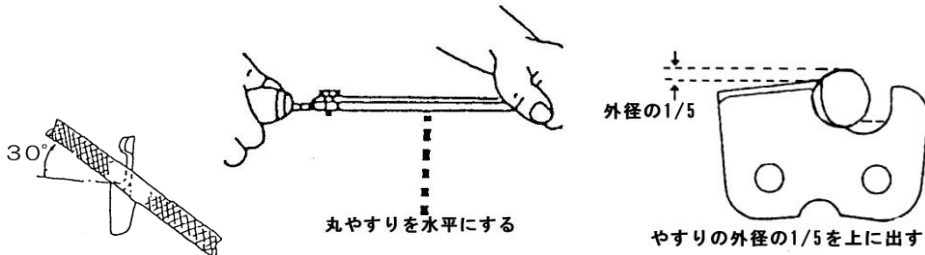
## 丸ヤスリ

目立てに使用する丸ヤスリはチェーンの種類にあった適切な物を使用してください。

91PX (ピッチ 3/8") : 5/32" (φ4.0mm) の物をご使用ください。

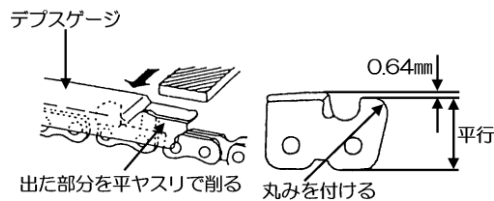
## 目立て

- ◇ 目立てはまずもっとも短いカッターの目立てから行い、その後全てのカッターを同じ長さに目立てます。
- ◇ 目立てはチェーンに合った適切な角度で行なってください。一本のソーチェーンを通して、カッターの目立て角度が不ぞろいにならないように注意してください。
- ◇ 上刃目立て角度は 30° です。
- ◇ 丸ヤスリを水平に保ち、内側から外側にまっすぐに軽く押し出してください。
- ◇ 手前に引く（戻す）ときはソーチェーンが削れないようにヤスリをソーチェーンから離してください。
- ◇ 目立ての際には丸ヤスリの径の 1/5 をカッターの上に出してください。
- ◇ 別売りのゲージを使用するとヤスリを適切な角度と位置に保つことが容易にできます。
- ◇ 片側のカッターを研いだ後、反対側のカッターを研いでください。長さや角度は必ず揃えてください。



## デブス

デブスゲージジョインターを図のようにセットし、ゲージから飛び出た部分を平ヤスリで擦り落とします。擦り落とした後は先端に図のように丸みを付けてください。



## 参考

- ◇ チェーンの目立てで重要なことは全ての刃の長さ、目立て角度、デブスが正しくしかも不揃いにならないようにすることです。
- ◇ 正しく目立てされたチェーンは図のようになりますので参考にしてください。



## 保管

長期間使用しない場合、正しく保管しなければ故障や始動不良の原因となります。以下の手順で保管します。

### ▲ 警告

- ◇ 子供の手の届かないところに保管すること。
- ◇ 屋内の湿気やほこりの少ないところに保管すること。湿気は点火システムに有害です。
- ◇ 必ずノコバカバーをソーチェンに取り付けること。
- ◇ 燃料タンクから燃料を完全に抜くこと。混合燃料を燃料タンクに入れたままにすると変質します。変質した燃料をエンジンに入れたままにしたり、使用してエンジンをかけたりするとエンジンに大変悪い影響を与えます。

1. 燃料タンクから燃料を完全に抜きます。
2. キャブレターから燃料をなくすために、エンジンをかけ、スロットルレバーを放してアイドルの状態のまま、ガス欠で止まるまで回します。
3. 燃料フィルターをガソリンでよく洗浄します（14 頁「燃料フィルターの掃除」参照）。
4. 各部の点検、及び清掃をします。
5. スパークプラグを外し、シリンダーの内面やベアリングなどの錆止め、保護のために2サイクルオイルを1 ccほど注入し、スターターをゆっくりと数回引いてスパークプラグを元通り取り付けます。
6. スターターをゆっくりと引いてみて圧縮(抵抗)を感じる位置で止め、湿気や埃などの少ない屋内に保管します。

## 簡単な故障と対策

現象	推定原因	対策
エンジンが始動しない。 またはエンジンの始動が困難。	始動手順が間違っている。	取扱説明書の「始動手順」に従ってください。
	スパークプラグの異常	スパークプラグを取り外し、清掃と電極間隙の調整を行ってください。 スパークプラグが濡れている場合はプラグを乾かしてから付け直し、エンジンが始動するまでスロットル全開で始動を行ってください。 スパークプラグが乾いている場合は、チョークを閉じて始動を行ってください。
	燃料フィルターが詰まっている。	燃料フィルターを清掃または交換してください。
エンジンは始動するが回転が上がらない。 又は出力が無い。	チョークレバーが間違った位置にある。	チョークを「開く」の位置にしてください。
	マフラーが汚れている。	マフラーを清掃してください。
	エアクリーナが汚れている。	エアクリーナを清掃または交換してください。
エンジン回転が不規則	スパークプラグの電極間隔が間違っている。	スパークプラグを取り外し、清掃と電極間隙の調整を行ってください。
排気ガスが多い	燃料が不適である。または燃料混合比が間違っている。	正しい混合燃料を入れてください。
強く押し付けないと切れない	ソーチェンの切れ味が低下	ソーチェンの目立てをする
まっすぐ切れない	左右のカッターの切れ味が不均等	ソーチェンの目立てをする
ソーチェンが外れやすい	ソーチェンの張りがゆるすぎる	ソーチェンを張り直す
チェンオイルの出が悪い	オイル吐出量が少ない	オイル吐出量の調整を行う

- 上の表以外の症状又は推定原因による故障については販売店にご用命ください。

## 定期整備表

		使用後	10 時間後	20 時間後	50 時間後	必要に 応じて
ボルト、ナット類	点検と締付	○				
エアクリーナ	清掃または交換		○			
燃料フィルター	清掃または交換			○		
スパークプラグ	点検	○				
	*調整、交換					○
マフラー内部	*清掃				○	
エアーギャップ間隔	*清掃、調整			○		
シリンダー冷却フィン	清掃	○		○		
冷却風取入れ口	清掃	○		○		
スターターロープ	点検または交換	○				
燃料ホース	点検または交換	○				
ギアケース	給脂		○			
	清掃と点検	○				
ソーチェン 締め付けスクリュー、抜け止めスク リュー、ナットの摩耗、損傷	点検または交換	○				

- \*印の整備については販売店にご用命ください。

## 主要諸元

### ギアケース、ソーチェン部

ソーチェン	91PX-40E (3/8) (P/N 806170)
刃長 (バー長さ)	10 インチ (P/N 807190)
ギアケース部重量	0.6kg (チェーンバーを含まず)
オイルタンク容量	140 cc
取付パイプ径	φ24
抜け止め穴位置	パイプ端面 20mm 穴径φ6 以上
取付ドライブシャフトエンド形状	インボリュートスプライン (φ7×7 枚歯×モジュール0.75)
ドライブシャフトの出入り寸法	パイプ端面から 23mm 以下、15mm 以上を推奨

### 本体

型式	RX-2610-NPS	
ハンドル型式	ツングリップ	
寸法	全長	206cm
	全幅	24cm
	全高	24cm
総重量	4.5kg	
燃料タンク容量	550cc	
動力伝達方式	自動遠心クラッチ	
エンジン型式	単気筒空冷 2 サイクルピストンバルブ式ガソリンエンジン	
アイドリング回転数	2700rpm~3200rpm	
始動時燃料供給方法	プライミング	
潤滑方式	燃料混合潤滑式	
気化器	ダイヤフラム	
スパークプラグ	Champion CJ6Y	
使用燃料	潤滑油混合ガソリン	
混合比	50 : 1 [SS-50 JASO 規格 FC 級] エンジンオイル	

改良などにより商品の細部仕様が本書記載内容と異なることがあります。ご了承ください。



関 東 支 社 〒270-2231 千葉県松戸市稔台 6-7-5 ( 機 械 本 部 )	TEL 047(361)4701(代)
北 海 道 営 業 所 〒047-0032 北海道小樽市稲穂 2-1-1	TEL 0134(24)1313(代)
東 北 営 業 所 〒963-0547 福島県郡山市喜久田町卸 1 丁目 37 番 1	TEL 024(959)6212(代)
東 京 営 業 所 〒270-2231 千葉県松戸市稔台 6-7-5	TEL 047(361)6831(代)
名 古 屋 営 業 所 〒463-0022 名古屋市守山区八剣 1-303	TEL 052(768)1303(代)
西 日 本 支 店 〒520-2134 滋賀県大津市瀬田 5-22-26	TEL 077(500)3380(代)
福 岡 営 業 所 〒813-0062 福岡県福岡市東区松島 6 丁目 4-17	TEL 092(611)1988(代)